

SHOW HEY シネマルーム

★★★★★

トエンティマン・ブラザーズ

配給/アットエンタテインメント@

2003 (平成15) 年7月21日鑑賞

Data

監督・脚本：スコット・ロバーツ

製作：アル・クラーク

出演：ガイ・ピアース/レイチェル・グリフィス/ロバート・ティラー/ジョエル・エドガートン/ダミアン・リチャードソン

👁️👁️ みどころ

長男をリーダーとする3人兄弟の強盗団とこれを手引きする悪徳弁護士。アリバイづくりのためには刑務所暮らしも必要。長男の妻は金髪美女だが、金も男も欲しい魅力的な悪女(?)マイナーな映画館でのオーストラリア映画だが、一流の出演者をそろえた楽しいおすすめ活劇だ。

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

<マイナーな映画館、マイナーなオーストラリア映画>

この映画は製作、監督、出演者はそれなりに一流だが、オーストラリア映画、そして、なぜかメジャーな映画館で公開されず、マイナーな映画館での公開。だから宣伝が、あまり行き届いていない。そのためか、祝日の夜8時35分からの上映の観客は、オッサンばかり、約10名。これで映画館が成り立つのかなとイラン心配も・・・。

<天才の強盗3兄弟と悪徳弁護士>

主人公ダイル (ガイ・ピアース) は、「トエンティマン・ブラザーズ」と呼ばれるプロの強盗団である3人兄弟の長男。そして、頭がよくて兄弟思いのリーダー。次男はシャイン (ジョエル・エドガートン)。三男はマル (ダミアン・リチャードソン)。

天才三兄弟のルールは次の2つ。すなわち、

- ① 「決して誰も傷つけないこと」
- ② 「必ず3人兄弟だけでやること」だ。

彼らを手引きするのは、悪徳弁護士のフランク (ロバート・ティラー)。フランクは、悪徳刑事や刑務官らとつるんで情報を集め、うまくダイルらを動かして巨額の金を強奪してきた。

刑務所の中に入るのも、ダイルらにとってはアリバイの一つ。

今までつらい刑務所暮らしだったが、今日はフランクの手引きのおかげで晴れての出所日。そしてまた、大きな強盗のお仕事だ・・・。

<ダイルの美しい妻キャロル>

釈放された3兄弟とフランクらは、さっそく「仕事」の打ち合わせ。

もっとも、ダイルだけは、2年ぶりに会った美しい金髪の妻キャロルと忙しいセックス。

キャロルは、ダイルを心から愛している。しかし、ダイルは長い間「塀」の中だった。そんなキャロルに色目をつかうフランク。キャロルは、夫ダイルと弁護士フランクの2人を上手く使い分ける悪女。愛情もお金もセックスも、そして「平和」も欲しい、そんなイヤらしい女・・・。

しかし美人でセクシーで魅力があり、なかなかキルことが出来ない女。こんな微妙な役柄をレイチェル・グリフィスがうまく演じている。

<再び塀の中へ>

3兄弟は、打ち合わせどおり、首尾よく大金をせしめることに成功。しかし・・・。フランクは言った。「目撃者がいた。アリバイづくりのためにもう一度刑務所にもどってもらおう」。

これに3人は完全に「キレ」たが、策略はフランクの方が上。結局3人は、再び塀の中に逆戻りだ。

「フランクとキャロルがデキている・・・。」そんな疑惑を抱くダイルは、刑務所の中のイライラも極限状態だ。

面会に来たキャロルのしゃあしゃあとした「うそつき」ぶりはさすが悪女。

フランクとの中を疑っていることを口に出したダイルに対して、キャロルは、「この妄想男！」と200%完全否定・・・。「ウソツキ女」は絶対に信用してはいけないことを、あらためて痛感！

<大仕事はメルボルンカップ>

毎年11月の第1火曜日に、オーストラリアのメルボルンのフレミントン競馬場で行われる競馬の世界三大レースの一つがメルボルンカップ。

毎年この日は祝日となる伝統的、国民的行事だそうです。

何と、このレースでのかけ金をすべて3人兄弟プラス新戦力を加えたスタッフでそっくりいただくというのがフランクの計画。

そして同時に、これに成功すれば、キャロルとの関係に感づいているらしいダイルら3人兄弟を「消して」しまい、キャロルを「横取り」したうえ、2人で暮そうという魂胆。

何とも悪いやつだ。

「強盗の決行は兄弟3人だけで」というルールを決めているダイルらは、これを拒否するが、「それでは、刑務所から出られないゾ」と脅されるとやむを得ない。決行を決意した。

<おもしろいドタバタ劇>

メルボルンカップでの強盗劇のドタバタは結構面白い。

また、女優陣も、次男シャインとデキてしまう精神科の女医さんや、三男マルに一目惚れして逃走の手伝いをする気象学者の女など、べっぴんではないが、結構面白いキャラクターをつくり出している。

次男と三男のキャラクターの面白さと、これらの女優陣がうまく絡み、欲がらみオンラインになりがちな強盗ストーリーの中に面白いポイントをつくっている。

3人兄弟は、フランクラを出し抜いてまんまと大金を一人(三人?)占め・・・、と思ったところ、隠していたはずの大金がドロン・・・。

<キャロルの最後の選択は・・・>

その半年後。大金を失った3兄弟はそれでも今は仲良くリゾート地でレストランを経営していた。

そこに現れたのがキャロルとフランク。

今や二人は新婚夫婦気どりだ。そして、フランクは、ダイルに対して「過去を水に流して、もう一度大仕事を・・・」と持ち込む。

そして、メルボルンカップでの大金をせしめたのは結局フランクだったことを暗にメッセージ・・・。さあ、3人兄弟そしてダイルはどうするのか・・・？

そしてキャロルは本当にダイルを捨てて、フランクとの生活を選ぶのか・・・？
最後の場面で銃は一体誰に向けて発射されるのだろうか？

その結末は映画を観てのお楽しみ、としておこう。

2003 (平成15) 年7月22日記